編集にあたって

去る2000年2月11日,「高齢者の運動疫学カンファレンスーDr. Shephardを囲んでー」が，東京都旧養育院板橋ナーシングホーム講堂で開かれた.これは,カナダ・トロント大学のシェパード名誉教授が,東京都老人総合研究所国外研究員として2月7日より21日まで在日されたのを機会に，同研究所地域保健部門が主催したものである．なお，本カンファレンスには，日本運動疫学研究会および日本疫学会から後援をいただいた．当日の参加者は，日本運動疫学研究会会員38名，その他28名，計66名であった．

カンファレンスでは，シェパード博士による基調講演「The productivity of older workers: the role of exercise」に続いて，8題の一般演題発表が行われた．このSupplementはそのProceedingsであり，7題の一般演題発表の論文と，参考までにシェパード博士の講演抄録を掲載したものである．

一般演題発表の論文は，高齢者の体力，身体活動，およびそれらと健康との関連についての研究報告である．疫学的研究手法から分類すると，横断的研究4，縦断的研究2，介入研究1ということになる．読者はこれを読んで，わが国における運動疫学研究の広がりとその質の高さを実感されるであろう．

なお，シェパード博士の講演要旨は以下のようであった.「先進国ではおしなべて労働力の高齢化が進展している．それに伴い，中高年者の労働生産性が課題となってくる．加齢に伴い人のからだは生理的に衰退するのは避けられない．そこで，労働生産性と関連の深い，心肺持久力，筋力，暑熱耐性の3側面から，加齢変化および運動トレーニングによる修飾について総説した．しかし，実際の労働現場においては，こうした人の生理機能の加齢変化が，労働生産性，健康，安全といった点で，深刻な問題を引き起こしているというわけではない.このパラドックスは,労働作業への熟練,生産現場のオートメーション化,労働組合等による規制，などで説明されるかもしれない」.

最後に，カンファレンス事務局からの無理な願いを承諾され，proceeding 原稿を提出していただいた各執筆者に感謝の意を表したい.本誌が日本運動疫学研究会の会員のみならず運動疫学に関心のある方の,今後の研究や仕事にお役に立てるならば幸いである．

2000年9月1日

「高齢者の運動疫学カンファレンス」主催者を代表して

新開　省二

東京都老人総合研究所地域保健部門